

潮流

2014
1月号
No.235

大津島(平成25年 12月1日現在)
人口 354人(男154人 女200人)
高齢化率 72%

謹んで、新春のお慶びを申し上げます。



旧年中は、地域コミュニティ推進につきましては、格別のご支援ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

昨今の当地域におきましては、昨年8月に大津島出身者の会「若潮の会」が誕生し、運動会や文化祭、ポテトマラソンなど地域行事への参加やサポートをして下さいました。今後も会の皆様の活動が、大津島の地域活性化の一助になってくれると期待しております。

また平成26年度は、海の郷が本格的な運営開始を迎え、その集客力をもって大津島が、どのように元気になっていくかも楽しみな事の一つです。

今後も皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。皆さまのご健勝と、ご多幸をお祈り致します。

大津島地区コミュニティ推進協議会 会長 安達 壽富

第28回 大津島文化祭



水戸黄門
～大津島漫遊記～



しゃっぎの教室
「おあ回天」の踊り



アルパ演奏



潮流編集委員会ブース



若潮の会の皆さん



垣の内農園 直売ブース

平成二十五年十一月二日。第二十八回大津島文化祭が、大津島小中学校で行われました。当日は天候にも恵まれ、晴天のもと、本浦垣の内農園がみかんや野菜の販売を、学校の保護者の皆さんと若潮の会が協力し、パザーや、お菓子、コーヒの販売を行いました。

体育館では、アスタロピスタの皆さんによるアルパの美しい演奏を聴き、しゃっぎの教室が歌う「ああ回天」にのせた踊りも披露されました。もちろん今年も水戸黄門く大津島漫遊記もあり、中学生と共に、地域住民が舞台で大立ち回りを繰り広げました。

近年島の文化祭は、出演、出品される住民の方も増えてきて、年々盛り上がりを見せています。

来年は、更に生徒数が減ることも予想されますが、地域住民、出身者で協力し、島の文化祭が、更に盛り上がる様を取り組みを、していければと思います。



屋野 廣志さん



渡辺 夏代さん



赤瀬 澄江さん



三島 アサヒさん

紙芝居

「おこげを下さい」



作：松本 千恵子
絵：古城 美保子

大津島の人々 (3)

Q、大津島に来られる前を伺って下さいましたか？
A、高校卒業後、退職するまで「日本ゼオン」に勤めていました。主に設計や、新入社員のための教科書などを作っていました。

Q、消防団では、どんな活動を？
A、第十四分団加見・富岡支部に入団し、六十一歳からは、周南市消防団の副団長をやっています。定年を迎え、「書生」の助っ人 Okaちゃんを始めようと思っています。

消防団での活動を通じて、様々な人と知り合えた事が、私にとって「宝もの」です。そのネットワークは、現在の仕事にも生かされています。消防団をやっていたからこそ、地域に馴染む事が、出来たと思います。

Q、「Okaちゃん」とは？
A、きっかけは、近所の方や、

Q、大津島に来られる前を伺って下さいましたか？
A、高校卒業後、退職するまで「日本ゼオン」に勤めていました。主に設計や、新入社員のための教科書などを作っていました。

Q、消防団では、どんな活動を？
A、第十四分団加見・富岡支部に入団し、六十一歳からは、周南市消防団の副団長をやっています。定年を迎え、「書生」の助っ人 Okaちゃんを始めようと思っています。

消防団での活動を通じて、様々な人と知り合えた事が、私にとって「宝もの」です。そのネットワークは、現在の仕事にも生かされています。消防団をやっていたからこそ、地域に馴染む事が、出来たと思います。

Q、「Okaちゃん」とは？
A、きっかけは、近所の方や、



岡崎 正明 (おかざき まさあき)さん
周南市上村出身。69歳。元周南市消防団副団長。平成23年2月より「暮らしの助っ人 Okaちゃん」を創設。

お年寄りの方から、日常の小さな事を頼まれる事が多くあり、この仕事の必要性を感じました。その後、消防団の活動で出会った人達に声をかけ三十名の仲間と共に「暮らしの助っ人 Okaちゃん」を設立し、平成二十三年から現在まで、島の日常の困り事解決すべく動いています。

Q、今までは、一番印象深かったのは？
A、本浦で石垣を組んだ仕事は、一番大掛かりでした。石垣組みのプロである安達敏夫さんに教えてもらいながら重機が入らず、全て手作業で、八日間かけて作業しました。

Q、今後は？
A、この仕事の需要は増えていくと思うので、仕事を続けるのは勿論ですが、まとも役の後継者を探さなくちゃいけないと思っています。

Q、仕事を依頼したい時はどうすればいいですか？
A、仕事内容は、料金は変わります。しかし、もう主観ではありません。無料の仕事も多々あります。困り事がある際はお気軽にTEL 090-1015-2277までご連絡下さい。お待ちしております。

(聞き手文 大友)



大寒も越さなくてはなりません。が、海岸沿いの道端や山裾に寒さがめげず元気に咲いている水仙のハナを見て、冷えた心がホットさせられます。



水仙

さあ一年の始まりです。今年も幸せが来るように、宝船を描きました。

一年間の笑ひ多きことを祈って、満載にした一年であります様に！！



宝船

季節の俳画
安達照子

海の街道・九



瑠璃光寺五重塔

文=末兼正純

一三九九年十月三日朝、大内の旗幟を靡かせた三百余艘の船団が三田尻の浜を離れ、列をなして続々と横島の端を廻り、上方へ向かって進む。足利義満を討つと覚悟を決めた大内義弘と、その兵五千であった。九日を経て、自領の泉州堺へ上陸、千数百の櫓を築いて堺の町を要塞化し、幕府の大軍を迎え撃つ形で、戦が始まった。応永の乱である。

十二月二十一日朝、冬の乾いた寒風が吹き荒れるのを待って、幕府軍が火攻めをしかける。無数の櫓も堺の町も、うなりを生じて走る炎に包まれて焼き尽くされ、寡兵ながらよく戦った大内軍もついに壊乱する。義弘はただ一騎となって敵陣に切り込み、馬上凄絶な自刃を果たす。四十四歳であった。

義満の西国遊覧による出会いから十年、良好な仲だった二人の間に何があったのだろうか。

前年、義満は義弘を呼びつけ、随行の兵五百騎を使って金閣で有名な鹿苑寺の庭園の工事を行うよう命じた。義弘は「大内の士卒は弓矢に従うべく、土木に役すべからず」と憤然と拒否し、山口に帰ってしまう。この一事だけでなく、権力乱用が目につく義満を許せないという思いを、義弘は募らせていたのだった。

日本三名塔の一つとされる山口の瑠璃光寺五重塔は、後事を託された弟の大内二十六代盛見(もりはる)が、義弘の菩提を弔うために建立したものである。

「変な漫画家です」

渡邊 あゆ子



「そんなもの描いていいのかなあ」
それは、私が漫画家になって二年目のことでした。

当時、私が描いていたのは少女漫画の雑誌でした。少女漫画というのは「存じのとおり、恋愛が中心のとてもキラキラした世界です。デビューできて喜んだものの、私は恋愛を描くのが苦手でした。作品はどこかで見たようにものばかりで、なにか大事な一味が足りない、そんなおまんじゅうを作っている感じでした。当然人気も出ませんでした。

そんな時、担当の編集さんから、「好きなものを描いてみない？」と、言われたのです。

「好きなものを描いていいんだ」と思う半面不安もありました。

だって、私の一番好きなものといえば、「怪談」だったのです。キラキラした世界とは真逆の「真っ暗」な世界です。

ところが思い切って描いてみたところ、これかと思いのほか好評だったのです。なにより私が楽しかった。「真っ暗」を入れた中で、恋愛も描くことができたのです。

好きというのとは大きなことですね。怖いくらいに。

以来、仕事は増えて行きましたが、私には少女ミステリー漫画家という、変な肩書が付くことになりました。

知っちょるかね



「すくどの話」

文＝松本 千恵子

●●●
すくどってちゅうて、この頃の人には判ろうかね。せんばとも言う、松の落葉のことで、昔は焚き付けなんかには、重宝されたものいね。

すくどと言われて思い出すのは子供の頃の冬休みのすくどこり。小さい妹弟を連れてすくどをこるの、私らの仕事。ガンゼキで、もとに落ちたすくどを集めて、外側に小木を置いて、束を作ると、束に小木を集めたようまで、束にしてみると、細い貧相なの束で、しかも縁からはすくどが崩れて落ちたりしてね。上手な人の束は一抱えもあって、小木をいっぱい使わんでも、縁からすくどがこぼれたりしませんでした。え

ちゅうるね。
え仕事をせる人は、出来上がりも美しいもんでね。
さて昔は島の行事は島の中でこなしよった。大変なのが食べ事じやったが、その折り「この家にあすくどがいっぱいあるそうな」ということになると、「それならあの婆様にすくどでご飯を炊いてもらおうやあ」と頼まれる婆様がおって米を研いで釜をかけた火ごこの前に、べたんと座り連れの婆様と二人火を覗き込みながら、すくどを一握りずつくべていく。二人顔を寄せては小声で話したり笑ったりする内に、そりゃあ美味しいご飯を炊き上げよったね。赤い炎に照らされて、背中を丸めて、楽しげな婆様二人、いまでも心に残

あけましておめでとう
今年が良い年にありますように



若潮の会

古城 美保子

「若潮の会」が結成して四回目の意見交換会が行われ、その間、運動会、文化祭、ボテトマラソンに参加させていただきました、ありがとうございます。その中で、会員は島を見直す機会を重ね、意見交換会では、島の文化芸能自然に触れ、継承する企画を考えています。

また、私達がこれまで知らなかったそれぞれの地区の歴史や風景を散策をしてみようという意見もあり、その時の思いを広く発信していくことが、島の元気や会の活動の源となり島の「ええねえ」につながればと思います。島で生きる猫、その猫の手よりもちよつとだけ「やろうじゃ！」

第24回 大津島ボテトマラソン



12月1日。第24回大津島ボテトマラソンが開催されました。今回は、過去最多の625人のランナーの方が応募し、観覧者とスタッフを合わせると、当日は、1000人を超える方が来島して下さいました。ありがとうございました。

今年からは、若潮の会の発案で、「お出迎えとお見送り」を、初めて行いました。今後も、「お・も・て・な・し」の心をもって、この取り組みを継続していきたいと思ひます。



大津島の最新情報 更新中！
<http://t-8996-ozsima.jugem.jp/>

ひろしのつぶやき



【走った、走った！】

文＝屋野 廣志

第二十四回のボテトマラソン、千二十四名の来島者を迎え、ボランティアアスタツフの大声援を頂き、元気な一日の行事は盛大だった。私も懸命に走る姿に元気を貰い、若い頃の思い出にひたる。

昭和二十六年。私は舞鶴造船所で、艦船解体の工事に従事した。舞鶴は海軍の町として、立派な広い道路が工場から宿舍寮まで、ゆるやかな登り坂が三キロ。私は毎夕終業後、宿舍までを走る事を日課とした。

同じ宿舍に少し先輩の走る仲間が居た。一キロ位は、歩調を合わせて走ってくれるが、そこを過ぎると「先に行くよ」と声をかけ、追い越していく。その速さと悔しさを思い出す。毎年末の京都高校駅伝に世羅の名を聞くと、舞鶴での先輩が、世羅の出身で

大津島地区内の税の申告相談

日にち 平成26年2月6日(木)
会場 馬島公民館 10:00~12:00
大津島支所 13:30~15:30
当日の朝8時30分から各会場にて受付番号の配布を開始します。
ただし、電話での事前予約は行いませんのでご了承ください。
申告に関するお問合せ先は、課税課 (Tel.22-8273)

～事務局からのお知らせ～

移動図書館<やまびこ号 Jr.>
1月29日(水) 2月18日(火)
●馬島巡航待合所 11:30~12:00
●刈尾巡航待合所 12:20~12:50

編集後記

新年あけましておめでとうございます。
大津島で迎える4回目のお正月。時が過ぎるのは早いもので、隊員として迎える最後のお正月となりました。隊員として活動できるものと3ヶ月。悔いの無いよう、頑張っていきたいと思ひます。
そして来年のお正月は、「大津島住民」としてお正月を迎え、5年ぶりに東京の正月を満喫し、両親に初めて「お年玉」をあげたいな...と今から待ち焦がれております。本年も宜しくお願ひ致します。 大友 翔太

◆発行 第235号 平成26年1月1日 大津島地区コミュニティ推進協議会事務局 大津島支所 周南市大字大津島1361-4 TEL.0834(85)2001

次回発行日 平成26年3月1日—第236号